

プログラム

第1日目 2025年9月13日（土） | DAY 1

メイン会場 (E101)

理事長企画 10:00 ~ 10:40 メイン会場

応用薬理研究会主催の第26回シンポジウムを迎えてー 本会の果たしてきた責任と将来像

座長：渡邊 泰雄（横浜薬科大学総合健康メディカルセンター特別教授）

吉澤 一巳（東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室）

演者：大泉 康（応用薬理研究会）

スポンサードシンポジウム 10:40 ~ 12:00 メイン会場

ニコチンアミドモノヌクレオチド（NMN）が持つ薬理作用とその応用展望

座長：斎藤 顕宜（東京理科大学薬学部 薬理学研究室）

上村 望（株式会社阿部養庵堂薬品）

共催：株式会社阿部養庵堂薬品

SS-1 I: NMN とは何か

上村 望、阿部 朋孝
(株式会社阿部養庵堂薬品)

SS-2 加齢マウスに対する高用量 NMN の抗老化作用

宇都 義浩^{1,2)}、田坂 徹^{1,2)}、鍋島 陽一²⁾、上村 望³⁾、阿部 朋孝³⁾
(¹⁾ 徳島大学大学院社会産業理工学研究部生物資源産業学域 C2 講座、
(²⁾ 京都大学大学院医学研究科健康加齢医学講座、(³⁾ 株式会社阿部養庵堂薬品)

SS-3 犬におけるニコチンアミドモノヌクレオチド経口投与の安全性およびサーチュイン遺伝子発現への影響

大崎 智弘¹⁾、遠藤 能史¹⁾、上村 望²⁾、森 未沙²⁾、阿部 朋孝²⁾
(¹⁾ 鳥取大学農学部、(²⁾ 株式会社阿部養庵堂薬品)

SS-4 II: NMN は急性期および慢性期の疼痛に効果をもたらす

上村 望¹⁾、大森 千夏²⁾、竹内 大輔²⁾、吉岡 寿倫²⁾、笠井 智香³⁾、吉澤 一巳³⁾、山田 大輔²⁾、
阿部 朋孝¹⁾、斎藤 顕宜²⁾
(¹⁾ 株式会社阿部養庵堂薬品、(²⁾ 東京理科大学薬学部薬理学研究室、(³⁾ 東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室)

ランチョンセミナー 1 12:10 ~ 13:00 メイン会場

社会実装を目指した糖鎖修飾 Nose-to-Brain システムを用いた革新的なアルツハイマー病治療薬の開発

座長：秋田 智后（東京理科大学 薬学部 物理薬剤学・製剤学研究室（秋田研究室）講師）

演者：山下 親正（(株)糖鎖工学研究所、東京理科大学薬学部）

共催：糖鎖工学研究所

教育講演 14:00 ～ 15:00 メイン会場

薬物動態に基づく至適投与量の設定と PDX モデルを用いた創薬開発への応用： From Bench to Bedside and Back again

座長：吉澤 一巳（東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室）

演者：濱田 哲暢（国立がん研究センター 研究所 分子薬理研究分野）

シンポジウム 1 15:00 ～ 16:20 メイン会場

難治性呼吸器疾患の病態と個別化治療のための選択肢

座長：磯濱 洋一郎（東京理科大学薬学部 応用薬理学研究室）

秋田 智后（東京理科大学薬学部 物理薬剤学・製剤学研究室）

S1-1 活性型 Vitamin D3 封入環境応答性脂質ナノ粒子による COPD 根治治療法と DDS の開発

秋田 智后¹⁾、山下 親正^{1,2)}

(¹⁾ 東京理科大学薬学部 物理薬剤学・製剤学研究室、²⁾ (株) 糖鎖工学研究所)

S1-2 炎症性呼吸器疾患におけるステロイド感受性の低下と、難治化した病態に対する治療薬の探索

西本 裕樹（麻布大学 獣医学部 総合科学部門 生物学研究室）

S1-3 急性呼吸器窮迫症候群 (ARDS) の治療標的としての水チャネル aquaporin-5

磯濱 洋一郎（東京理科大学薬学部 応用薬理学研究室）

シンポジウム 2 16:30 ～ 17:50 メイン会場

Onco-cardiology ～心毒性の予測からその軽減まで～

座長：花輪 剛久（東京理科大学薬学部 医療デザイン学・臨床製剤設計学研究室）

安東 賢太郎（千葉科学大学薬学部 薬理学研究室）

S2-1 製薬企業における抗がん剤による心毒性軽減のためのチャレンジ

吉永 貴志（エーザイ株式会社 高度バイオシグナル安全性評価部）

S2-2 In vivo 非臨床試験から臨床におけるがん治療関連心血管毒性（CTR-VCT）を予測できるか？

安東 賢太郎（千葉科学大学薬学部薬理学研究室）

S2-3 腫瘍循環器学の診療ガイドラインが示すエビデンス・ギャップとリアル・ワールド・エビデンス

佐瀬 一洋（順天堂大学大学院医学研究科臨床薬理学）

第2日目 2025年9月14日（日） | DAY 2

メイン会場 (E101)

特別講演 10:00 ~ 10:50 メイン会場

『エネルギー消費の促進』と『慢性炎症の抑制』に基づく生活習慣病の個別化医療を目指した研究

座長：笠井 智香（東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室）
演者：平池 勇雄（東京大学大学院医学系研究科 先進代謝病態学講座）

ランチョンセミナー 2 12:10 ~ 13:00 メイン会場

コーヒー中に含まれる機能性成分の活用およびアプリケーション開発

座長：吉澤 一巳（東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室）
演者：熊王 俊男（味の素 AGF 株式会社 開発研究所）

共催：味の素 AGF 株式会社

シンポジウム 3 14:00 ~ 15:20 メイン会場

がん支持療法・緩和医療のサイエンス

座長：中川 貴之（和歌山県立医科大学薬学部 病院薬学研究室／附属病院薬剤部）
宗 可奈子（京都大学大学院薬学研究科 統合薬学教育開発センター）

S3-1 がん支持療法・緩和医療分野における治療薬開発を目指して

中川 貴之^{1,2)}、抱 将史¹⁾、土井 光則¹⁾、松本 みさき¹⁾
(¹⁾ 和歌山県立医科大学薬学部病院薬学研究室、²⁾ 和歌山県立医科大学附属病院薬剤部)

S3-2 がん化学療法における味覚障害の予防・治療法開発に向けて

宗 可奈子¹⁾、津田 真弘²⁾、山下 富義¹⁾
(¹⁾ 京都大学大学院薬学研究科 統合薬学教育開発センター・数理治療薬学分野、²⁾ 京都大学医学部附属病院薬剤部)

S3-3 がん悪液質病態に基づく新規治療法の開発

原田 浩徳（東京薬科大学生命科学部 生命医科学科腫瘍医科学研究室）

大会長特別企画 15:20 ~ 16:30 メイン会場

腸から脳を整える～糖質科学と個別化医療の最前線～

座長：吉澤 一巳（東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室）
野崎 千尋（早稲田大学 理工学術院 国際理工学センター）

助成：公益財団法人 水谷糖質科学振興財団

C-1 糖鎖科学と脳腸相関：本シンポジウム企画にあたって

吉澤 一巳¹⁾、熊王 俊男^{1,2)}
(¹⁾ 東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室、²⁾ 味の素 AGF 株式会社 開発研究所)

C-2 高セルロース食はオピオイド系が寄与する脳腸軸を介して不安を惹起する

野崎 千尋（早稲田大学理工学術院国際理工学センター）

C-3 腸内細菌を基にしたパーソナライズ化と睡眠へのアプローチ

佐々木 裕之（カルビー株式会社 研究部 機能研究課）

□頭発表 9月14日(日) 10:50～12:00

○-1 柑橘由来生薬 枳実の心機能調節作用と有効成分の同定

関 舞香¹⁾、石井 蒼¹⁾、塩田 優那¹⁾、大月 興春²⁾、濱口 正悟¹⁾、菊地 崇²⁾、行方 衣由紀¹⁾、
李 魏²⁾、田中 光¹⁾

¹⁾ 東邦大学 薬学部 薬物学教室、²⁾ 東邦大学 薬学部 生薬学教室

○-2 IL-7 受容体を標的とした抗体薬物複合体による急性リンパ性白血病の中枢神経系浸潤の革新的制御

濱田 源実^{1,2)}、高島 大輝¹⁾、安永 正浩¹⁾

¹⁾ 国立がん研究センター先端医療開発センター新薬開発分野、

²⁾ 東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻

○-3 細胞牽引力によるオリゴデンドロサイトの機能制御

渡辺 晴輝^{1,2)}、植田 堯子²⁾、Quan Lili²⁾、鈴木 立紀¹⁾、村松 里衣子²⁾

¹⁾ 東京理科大学大学院薬学研究科臨床病態学研究室、

²⁾ 国立精神・神経医療研究センター神経研究所神経薬理研究部

○-4 スダチ果皮由来ポリメトキシフラボン類スダチチンおよびデメトキシスダチチンの心血管系に対する作用

上田 知菜美、梅田 沙希、永井 愛乃、金江 春奈、野口 和雄

武庫川女子大学 薬学部 健康生命薬科学科 食品機能科学研究室

○-5 経鼻投与された糖鎖修飾 GLP-1 誘導体は神経細胞を継いで神経変性を抑制し学習記憶障害を改善させる

嶋田 奈央¹⁾、萩原 悠斗¹⁾、高橋 寿斗¹⁾、河口 真佑¹⁾、秋田 智后¹⁾、山下 親正^{1,2)}

¹⁾ 東京理科大学大学院 薬学研究科 物理薬剤学・製剤学、²⁾ (株)糖鎖工学研究所

○-6 齧歯類におけるアリルイソチオシアネートによる胃運動減弱と粘膜血管透過性亢進の関係 - タキキニン NK1 受容体遮断薬アプレピタントの効果 -

田嶋 公人、池田 朱里、金子 愛実、堀江 俊治

城西国際大学 薬学部 薬理学研究室

示説時間 9 月 13 日 (土) 13:05 ~ 13:55 (奇数)

示説時間 9 月 14 日 (日) 13:05 ~ 13:55 (偶数)

P-1 有機リン系難燃剤である Isopropylphenyl phosphate の情動行動への影響の解析

井上 唯菜¹⁾、千葉 俊¹⁾、前多 隼人^{1,2)}、中島 晶^{1,2)}

¹⁾ 弘前大学農学生命科学部、²⁾ 弘前大学大学院地域共創科学研究科

P-2 HaCaT 細胞を用いたスクラッチアッセイによる特殊電解還元水の創傷治癒効果

和田 侑子¹⁾、青山 サクラ¹⁾、下川 健一¹⁾、山本 博之²⁾、廣瀬 香織³⁾、花輪 剛久³⁾、
岡島 儀尚⁴⁾、岡島 眞裕⁴⁾、石井 文由¹⁾

¹⁾ 明治薬大、²⁾ 愛知淑徳大、³⁾ 東京理大薬、⁴⁾ エー・アイ・システムプロダクト

P-3 低気圧曝露により生じる痛覚過敏および前庭神経核への興奮入力におけるアクアポリン 4 水チャネルの役割と五苓散による抑制作用

村上 一仁¹⁾、清水 智史²⁾、木戸 敏孝²⁾、磯濱 洋一郎¹⁾

¹⁾ 東京理科大学 薬学部 応用薬理学研究室、²⁾ 株式会社ツムラ漢方研究所

P-4 脳虚血障害における MCT1 阻害薬の脳保護作用

平山 友里、安西 尚彦

千葉大学大学院医学研究院薬理学

P-5 基礎薬学を活用した個別最適化への取り組み
～帯状疱疹治療薬アカデミック・ディテリング資材開発～

杉山 奈津子¹⁾、紺野 奇重¹⁾、辻 稔¹⁾、永井 尚美²⁾、中谷 善彦¹⁾、平川 聡史³⁾、
出雲 貴文⁴⁾、木村 聡子⁵⁾、鈴木 邦彦⁶⁾、頓宮 美樹⁷⁾、長澤 宏之⁸⁾、宗像 千恵⁹⁾、
森崎 隆博⁴⁾、岸 達生¹⁰⁾、小茂田 昌代⁴⁾

¹⁾ 国際医療福祉大学薬学部、²⁾ 武蔵野大学薬学研究所、³⁾ 聖隷浜松病院支持医療科、

⁴⁾ 医療法人徳洲会千葉西総合病院薬剤部、⁵⁾ 東庄町国民健康保険東庄病院、⁶⁾ つなぐ薬局柏、

⁷⁾ 株式会社 la vita、⁸⁾ セコム医療システム(株) 運営監理部、⁹⁾ 国際医療福祉大学福岡薬学部、

¹⁰⁾ 公益財団法人 日本薬剤師研修センター

P-6 トラゾドンは、クプリゾン誘発性脳炎症を抑制する

小川 泰弘、小林 亮太、富崎 佑太、道永 昌太郎、菱沼 滋

明治薬科大学 薬学部 薬効学研究室

P-7 グルタミン酸による網膜神経細胞死におけるグルコースの影響

寺田 茉生¹⁾、高野 紗帆¹⁾、村上 綾²⁾、速水 耕介^{1,2)}、住野 彰英²⁾

¹⁾ 横浜薬科大学 機能性物質学研究室、²⁾ 横浜薬科大学 食化学研究室

P-8 異なる粒子径のハイドロキノンを用いて自転・公転ミキサーを利用した院内製剤 5% ハイドロキノン軟膏の新規調製法の検討

木下 雅子¹⁾、瀧川 正紀¹⁾、花輪 剛久²⁾、廣瀬 香織²⁾、田中 博之³⁾

¹⁾ 東邦大学薬学部臨床薬剤学研究室、²⁾ 東京理科大学薬学部臨床製剤設計学研究室、

³⁾ 東邦大学薬学部実践医療薬学研究室

P-9 シスプラチン誘発性腎障害に対するヒスタミン H₁ 受容体拮抗薬の予防効果に関する検討

佐藤 光利¹⁾、近藤 有弓¹⁾、常世田 璃奈¹⁾、田中 博之²⁾、小杉 隆祥³⁾

¹⁾ 明治薬科大学薬学部医薬品安全性学研究室、²⁾ 東邦大学薬学部、³⁾ 金沢病院薬剤科

P-10 ニコチン誘発振戦に対する柿蒂湯の効果

相原 結菜¹⁾、粉川 俊太郎²⁾、木村 水優¹⁾、相田 和輝¹⁾、杉 富行²⁾、野澤 (石井) 玲子¹⁾

¹⁾ 明治薬科大学薬理学研究室、²⁾ 明治薬科大学臨床薬学研究室

- P-11 カフェイン酸エステル誘導体によるヒト Glyoxalase I 活性阻害と培養がん細胞への細胞死誘導効果の検討
石崎 修司²⁾、西田 彩¹⁾、中峰 佳奈子¹⁾、山地 香女¹⁾、宮崎 夏希¹⁾、高橋 実央¹⁾、佐藤 良平³⁾、倉持 幸司³⁾、吉森 篤史⁴⁾、高澤 涼子^{1,2)}
¹⁾ 東京理科大学薬学部、²⁾ 東京理科大学薬学研究科、³⁾ 東京理科大学創域理工学部、⁴⁾ 株式会社理論創薬研究所
- P-12 ヒト人工多能性幹細胞から作製した大脳皮質オルガノイドを用いた神経層構造形成におけるミクログリアの機能解析
賀川 理那¹⁾、山田 志歩¹⁾、原田 考輝¹⁾、西村 周泰²⁾、高田 和幸¹⁾
¹⁾ 京都薬科大学薬学部シナジーラボ、²⁾ 同志社大学大学院脳科学研究科脳回路機能創出部門
- P-13 ヒト・アストロサイトーマにおけるヒスタミン受容体のサブタイプ依存的な ERK リン酸化の解析
飯星 陽介、道永 昌太郎、栗原 美咲、小川 泰弘、菱沼 滋
明治薬科大学薬学部薬効学研究室
- P-14 ヒト細胞系を用いたミクログリアおよびコリン作動性神経の $\alpha 7$ ニコチン性アセチルコリン受容体刺激がもたらすエフェロサイトーシス様活性化および神経保護作用
松田 凌太郎、末吉 真梨、蓑手 佑佳、高田 和幸
京都薬科大学 シナジーラボ
- P-15 深層学習を用いた脊髄損傷モデルマウスの運動機能評価
大江 奈月^{1,2)}、植田 堯子¹⁾、鈴木 立紀²⁾、村松 里衣子¹⁾
¹⁾ 国立精神・神経医療研究センター神経研究所神経薬理研究部、²⁾ 東京理科大学薬学部臨床病態学研究室
- P-16 アルツハイマー型認知症モデルマウスにおける線維芽細胞増殖因子 21 の髄鞘修復作用
吉岡 大晶^{1,2)}、植田 堯子¹⁾、鈴木 立紀²⁾、村松 里衣子¹⁾
¹⁾ 国立精神・神経医療研究センター神経研究所神経薬理研究部、
²⁾ 東京理科大学大学院薬学研究科臨床病態学研究室
- P-17 空間トランスクリプトミクスによる脊髄損傷慢性期の分子発現解析
内田 健太^{1,2)}、米津 好乃^{1,3)}、三澤 日出巳³⁾、村松 里衣子¹⁾
¹⁾ 国立精神・神経医療研究センター神経研究所神経薬理研究部、²⁾ 東京農工大学工学部生命工学科、
³⁾ 慶應義塾大学大学院薬学研究科薬理学講座
- P-18 TNBS 誘発性炎症性腸疾患モデルラットを用いた治療薬の効果に関する検討
石島 裕一郎¹⁾、青山 穰¹⁾、山口 真桜¹⁾、廣瀬 香織²⁾、花輪 剛久²⁾、佐藤 光利¹⁾
¹⁾ 明治薬科大学薬学部医薬品安全性学研究室、²⁾ 東京理科大学薬学部臨床製剤設計学研究室
- P-19 選択的 δ オピオイド受容体作動薬 SYK-320 のノンレム睡眠における δ パワー増大作用
鈴木 佳乃¹⁾、萩原 菜月¹⁾、野田 真央¹⁾、尾山 実砂¹⁾、渡辺 俊¹⁾、平山 重人²⁾、岩井 孝志¹⁾、藤井 秀明²⁾、田辺 光男¹⁾
¹⁾ 北里大学薬学部薬理学教室、²⁾ 北里大学薬学部生命薬化学教室
- P-20 革新的なアルツハイマー病治療薬として臨床応用を可能とする糖鎖修飾 GLP-1 誘導体の点鼻液剤の開発
高橋 寿斗¹⁾、萩原 悠斗¹⁾、嶋田 奈央¹⁾、織田 晴音¹⁾、河口 真佑¹⁾、秋田 智后¹⁾、山下 親正^{1,2)}
¹⁾ 東京理科大学大学院 薬学研究科 物理薬剤学・製剤学、²⁾ (株) 糖鎖工学研究所
- P-21 経鼻投与された糖鎖修飾 GLP-1 誘導体は神経を介して網膜・視神経へ移行する
菱田 郁花¹⁾、織田 晴音¹⁾、鬼頭 文子¹⁾、秋田 智后¹⁾、山下 親正^{1,2)}
¹⁾ 東京理科大学大学院 薬学研究科 物理薬剤学・製剤学研究室、²⁾ (株) 糖鎖工学研究所

P-22 COPD 根治治療を目指した活性型 VD3 封入機能性脂質ナノ粒子の吸入粉末剤の開発

中里 太一¹⁾、根本 わか菜¹⁾、足立 侑駿¹⁾、河合 雄大¹⁾、八谷 梨花¹⁾、秋田 智后¹⁾、
山下 親正^{1,2)}

¹⁾ 東京理科大学大学院 薬学研究科 物理薬剤学・製剤学、²⁾ (株) 糖鎖工学研究所

P-23 がん悪液質に伴うコルチコステロン分泌リズムの破綻と脂肪分解亢進

佐々木 香音、大野 鈴音、長瀬 あかり、並木 賢人、御厨 麻衣、吉澤 一巳、笠井 智香
東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室

P-24 がん悪液質モデルに対する超音波曝露の影響

御厨 麻衣¹⁾、笠井 智香¹⁾、並木 賢人¹⁾、佐々木 香音¹⁾、楊 一諾¹⁾、斎藤 顕宜²⁾、
宮崎 智³⁾、吉澤 一巳¹⁾

¹⁾ 東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室、²⁾ 東京理科大学 薬学部 薬理学研究室、
³⁾ 東京理科大学 薬学部 生命情報科学研究室

P-25 In vivo、in vitro モデルを用いた LPS 誘発性の炎症に対する黄連解毒湯の効果

村上 奏大¹⁾、古川 恵¹⁾、青木 亮憲²⁾、山崎 絢世¹⁾、水上 乃愛¹⁾、東方 優大¹⁾、
出雲 信夫^{1,3)}

¹⁾ 横浜薬科大学薬学部薬物治療学研究室、²⁾ 横浜薬科大学薬学部薬学教育センター、
³⁾ 横浜薬科大学薬学部総合健康メディカル研究センター

P-26 ラクトフェリンはスコポラミン投与により誘導された記憶障害を改善する

澁谷 昌幸¹⁾、古川 恵¹⁾、青木 亮憲²⁾、東方 優大¹⁾、出雲 信夫^{1,3)}

¹⁾ 横浜薬科大学薬学部薬物治療学研究室、²⁾ 横浜薬科大学薬学部薬学教育センター、
³⁾ 横浜薬科大学薬学部総合健康メディカル研究センター

P-27 社会敗北ストレスマウスの行動低下に対する孤立化の影響

永川 日都¹⁾、弓削 趙瑠¹⁾、青木 亮憲²⁾、古川 恵¹⁾、東方 優大¹⁾、渡邊 泰雄³⁾、
出雲 信夫^{1,3)}

¹⁾ 横浜薬科大学 薬物治療学研究室、²⁾ 横浜薬科大学 薬学教育センター、
³⁾ 横浜薬科大学 総合健康メディカル研究センター

P-28 抹茶による記憶障害改善効果と神経突起伸長作用の検討

水上 乃愛¹⁾、谷 玲郁²⁾、斉藤 凜²⁾、青木 亮憲³⁾、東方 優大²⁾、古川 恵²⁾、
長嶋 大地^{4,5)}、渡邊 泰雄⁵⁾、出雲 信夫^{1,2,5)}

¹⁾ 横浜薬科大学大学院薬学研究科薬物治療学研究室、²⁾ 横浜薬科大学薬学部薬物治療学研究室、
³⁾ 横浜薬科大学薬学部薬学教育センター、⁴⁾ 横浜薬科大学臨床薬剤学研究室、
⁵⁾ 横浜薬科大学薬学部総合健康メディカル研究センター

P-29 木質セルロース製フィルムの表面粗さと膨潤挙動が細胞増殖能に与える影響

吉川 奈月¹⁾、笠井 智香²⁾、吉澤 一巳²⁾、上谷 幸治郎³⁾

¹⁾ 東京理科大学大学院工学研究科上谷研究室、²⁾ 東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室、
³⁾ 東京理科大学工学部上谷研究室

P-30 ナタデココ由来の培養基材を用いたマウス筋芽細胞 C2C12 の配向化誘導の検討

比田井 咲里¹⁾、大長 一帆²⁾、笠井 智香³⁾、吉澤 一巳³⁾、上谷 幸治郎⁴⁾

¹⁾ 東京理科大学大学院工学研究科上谷研究室、²⁾ 東京大学大学院工学系研究科塩見研究室、
³⁾ 東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室、⁴⁾ 東京理科大学工学部上谷研究室

P-31 柑橘系ポリメトキシフラボン類の心拍数および心筋収縮力への影響

ーシークワサー果皮由来ポリメトキシフラボン、ノビレチンおよびタンゲレチンの作用ー

梅田 沙希、竹内 葵、佐藤 朝香、松下 翠、上田 知菜美、野口 和雄

武庫川女子大学 薬学部 健康生命薬科学科 食品機能科学研究室

P-32 C26 担がんモデルマウスの疲労様行動に対するニコチンアミドの影響

市原 沙倅¹⁾、三澤 由実¹⁾、井倉 渚¹⁾、諸井 春菜¹⁾、粉川 小雪¹⁾、笠井 智香¹⁾、
荻野 暢子²⁾、大森 千夏³⁾、斎藤 顕宜³⁾、熊王 俊男^{1,4)}、吉澤 一巳¹⁾

¹⁾ 東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室、²⁾ 東京理科大学薬学部 遺伝子制御学研究室、
³⁾ 東京理科大学薬学部 薬理学研究室、⁴⁾ 味の素 AGF 株式会社 開発研究所

P-33 選択的 β_3 アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤ミラベグロンによる陽性変時作用は、
 β_3 および β_2 ではなく β_1 アドレナリン受容体が関与している可能性

永井 愛乃、樫本 奈菜、井上 莉那、新熊 ミナ、松下 翠、上田 知菜美、野口 和雄
武庫川女子大学 薬学部 健康生命薬科学科 食品機能科学研究室

P-34 C26 担がんモデルマウスを用いた疲労関連行動の評価

三澤 由実¹⁾、市原 沙倅¹⁾、笠原 桜佳¹⁾、千葉 菜緒¹⁾、笠井 智香¹⁾、熊王 俊男^{1,2)}、
吉澤 一巳¹⁾

¹⁾ 東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室、²⁾ 味の素 AGF 株式会社 開発研究所

P-35 患者に優しい製剤の開発 ―患者の服用性向上を目的とした半固形製剤の調製と評価―

廣瀬 香織¹⁾、西原 優里¹⁾、大和谷 和彦²⁾、鈴木 夢生²⁾、田淵 彰²⁾、花輪 剛久¹⁾

¹⁾ 東京理科大学 薬学部 医療デザイン学・臨床製剤設計学、²⁾ MP 五協フード & ケミカル株式会社

P-36 超音波刺激が誘導する PIEZO1 依存的 Ca^{2+} 流入の動態と最適パラメーターの探索

横島 駿¹⁾、笠井 智香¹⁾、吉澤 一巳¹⁾、斎藤 顕宜²⁾、宮崎 智³⁾

¹⁾ 東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室、²⁾ 東京理科大学 薬学部 薬理学研究室、
³⁾ 東京理科大学 薬学部 生命情報科学研究室

P-37 既存嫌酒薬ジスルフィラムの抗不安様効果における経鼻投与の有用性

太田 有紗¹⁾、寺島 裕也²⁾、山田 大輔¹⁾、永井 康晴^{1,2)}、木下 博之³⁾、松島 綱治²⁾、斎藤 顕宜¹⁾

¹⁾ 東京理科大学 薬学部 薬理学研究室、²⁾ 東京理科大学 生命医科学研究所 炎症・免疫難病制御部門、
³⁾ 科学警察研究所

P-38 新規抗炎症薬リダイフェン類縁体のラットにおける単回静脈内投与後の組織移行性の検討

蒲地 未来¹⁾、前田 絢子¹⁾、村田 絵理²⁾、佐藤 芙美²⁾、山口 桃佳²⁾、田口 遥²⁾、村田 貴嗣²⁾、
椎名 勇²⁾、真野 泰成¹⁾

¹⁾ 東京理科大学薬学部臨床薬剤情報学研究室、²⁾ 東京理科大学理学部応用化学科

P-39 マウス侵害受容性疼痛及び痛覚変調性疼痛に対するニコチンアミドモノヌクレオチド (NMN) の
鎮痛効果の検証

大森 千夏¹⁾、永井 康晴¹⁾、竹内 大輔¹⁾、吉岡 寿倫¹⁾、笠井 智香²⁾、吉澤 一巳²⁾、山田 大輔¹⁾、
阿部 朋孝³⁾、斎藤 顕宜¹⁾

¹⁾ 東京理科大学薬学部 薬理学研究室、²⁾ 東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室、³⁾ 阿部養庵堂薬品
